# なぜ仕事と不妊治療の両立は難しいの？

## 理由❶ 通院回数が多い

検査や治療のために何度も通院する必要があります。

■通院日数の目安（月経周期ごと）※1

| | 女　性 | 男　性 |
|---|---|---|
| 一般不妊治療（タイミング法 排卵誘発法 人工授精） | 診療1～2時間程度の通院　2～6日 | 0～半日 ※手術の場合は1日 |
| 特定不妊治療（体外受精 顕微授精） | 診療1～3時間程度の通院　4～10日 ＋ 診療半日~1日程度の通院　1～2日 | |

※上記の表はあくまでも目安であり、医師の判断、個人の状況等により増減する可能性があります。

## 理由❷ 精神面での負担が大きい、周りに言いにくい

不妊治療を受けていることを職場に一切伝えていない人は約6割もいます。※1

理由としては、

知られたくない

治療がうまくいかなかったとき、職場に居づらい

周囲に気づかいをしてほしくない

また治療の内容によっては、体に痛みがあったり、何度も通院しても必ず妊娠につながるとは限らず、精神的、身体的、経済的にも負担がかかります。

## 理由❸ 休みの調整が難しい

治療は、体調や排卵周期に合わせた通院が求められるため、前もって予定を立てることが困難です。通院日に外せない仕事が入ることも考えられます。

- 仕事終わりに病院に直行し、帰宅が22時の時もあった。半休や早退もした。会社の理解がないと難しい。
- 不規則な休みを同僚に隠しながら取ることが心苦しかった。※2

# 治療費の助成制度

令和２年度に限り、新型コロナウイルス感染拡大に伴う特例あり。

不妊治療には、１回50万円程度の高額な治療費が発生するものもあり、10人に１人は総額300万円以上掛かっています。※2

経済的負担軽減のため、治療費の一部を助成する制度があります。詳細は、右記連絡先にお問い合わせください。

## ■香川県特定不妊治療費助成事業

〈年齢、回数上限あり〉

**【国の助成制度】**

- 特定不妊治療１回15万円まで（初回治療に限り30万円まで）
  治療内容によっては7.5万円まで助成
- 男性不妊治療（精子を精巣又は精巣上体から採取）を行った場合は15万円まで助成（初回治療に限り30万円まで）

**【県の上乗せ助成】**

- 通算２回に限り、国の助成額のほか５万円まで助成

問い合わせ先：香川県健康福祉部子ども政策推進局子ども家庭課 087-832-3285

## ■丸亀市こうのとり支援事業

〈年齢、回数上限あり〉

- 香川県の助成額を控除した額で、１回10万円まで助成

問い合わせ先：丸亀市健康課 0877-24-8806

《市担当保健師より》

昨年は延べ148件の申請がありました。申請には、男性やご夫婦一緒に来られる方もいらっしゃいます。また平成30年度より、男性不妊治療も助成対象となりました。（申請実績なし）女性だけでなく、ご夫婦で理解し合い、共に進めていくことが大切だと思います。

# 仕事との両立のために、こんな支援があれば…

## 周囲の人の理解

約８割の方が不妊治療の実態を知らないと回答しています。※1

仕事との両立の難しさや治療を打ち明けられない人の存在を理解し、制度を利用しやすい環境づくりについて職場で話し合うのも良いでしょう。

## 職場の柔軟な制度

通院回数が多いため、半日単位、時間単位など必要な時間だけ有給休暇が取れたり、在宅勤務など勤務場所を選べる制度があると、両立しやすくなります。

ご希望があれば、お勤めの事業所に両立支援制度についての情報提供や説明に伺います。
（連絡先：丸亀市人権課0877-24-8823）

※1　厚生労働省2020年3月作成「不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりのためのマニュアル」より
※2　jineko2019冬号～不妊治療についてのアンケート調査～より

# 専門医からのアドバイス

連載『丸亀で会いましょう』特別バージョンです。

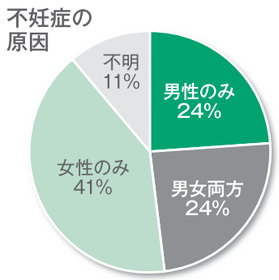
◀取材時もマスク着用を順守されていました。

## おかしいと思ったら受診を、ダブルキャスト化できる職場環境に

医療法人社団厚仁会 厚仁病院　松山毅彦理事長先生

### 不妊治療の最近の傾向

不妊治療をされる方は増えています。働く女性が増え、晩婚化、晩産化となっていることなど事情はさまざまだと思います。最近では、治療に積極的な男性も増えた印象です。WHOの統計によると男性に原因がある場合も意外と多く、男女両方に原因がある場合も含めると約半分です。しかし、不妊治療はどうしても女性の方に負担が大きいので、治療の中で男性がどれだけ関わるのかが大切です。




出典：WHO(世界保健機関)調べ

### 仕事との両立の難しさ、両立を目指して

当院別館（生殖医療部門）は予約診療ですが、17時以降は予約人数の制限はありません。ただし受付は18時までとさせていただいています。待ち時間は長くなりますが、責任をもって診させていただいています。終業後、高松や三豊、県外から急いで来られる方もいます。

ときどき「これ以上通院回数が増えるとキツイので、仕事を辞めたい」といった相談もありますが「できれば続けたほうがいいと思うよ」と答えています。具体的なことは職場との相談になりますが、治療によっては保険がきかない自費診療となるなど、経済面での負担等もあることから、私自身は仕事を続けながら通院してほしいと考えています。

また女性の場合、就職してこれからキャリアを積むときが妊娠適齢期と重なるので、バランスが難しい。「仕事」と「不妊治療」、私も理事長として病院のトップでもありますが、経営者として考えるとこのバランス取りはなかなか厳しく、どちらの肩も持てないのが現実です。そこを理解してくれる職場ならば理想的だと思います。企業規模が大きければ、１つの仕事を２、３人でシェアできますが、企業規模が小さいとシェアが不可能なことも多くなりがちです。１つの仕事に対してのダブルキャスト化は必要であり、当院でも取り組んでいますが、なかなか難しい。いざというときに対応ができるような体制作りを心掛けてほしいと思っています。

今後は介護の問題もあります。介護は大多数の方が経験する可能性があるので、上司の理解も得やすいと思いますが、不妊治療は経験しない人もいるため、理解していただけないこともあるようです。

### 先生からのメッセージ

当院では、１年、２年という不妊期間は気にしません。おかしいと思ったらまず受診をおすすめしたい。早めに受診してもらえれば、最低限の検査をしたうえで、治療方針の方向性が分かります。その上で今後の方針を相談します。様子見の方、自力でがんばるという方、通院を続ける方、患者さんによってさまざまです。

やはり妊娠率、卵子の数は年齢とともに減少します。しかし年齢が若くても問題がある場合もあるし、２人目不妊の場合もあります。ご夫婦によってさまざまな理由があるので、しっかりと理由をつかむことが大事です。

### 取材を終えて

産婦人科医になったきっかけは「ご縁」。先輩から誘われ、産婦人科のお手伝いをしたとき「産まれてくる命に感銘を受けた」そうです。そこから何十年も生殖医療に尽力され続け、さらに患者さんのメンタル面もカバーもできたらと考えられていて、患者さんに対しての思いやりを感じました。

今回もお忙しい中の取材にも関わらず、快く応じてくださり、気さくで相談しやすい先生だと思いました。技術もさることながらその人柄に県内外からたくさんの患者さんが先生を訪ねてこられるのだと感じました。

# 最後に

「仕事か子どもか」の選択を迫ったり、どちらかを諦めてしまうのはとても辛いことです。不妊治療以外にも、育児や介護、病気の治療などさまざまな事情を抱えながら働く方は多いと思います。今は関係ない方でも、これから遭遇する可能性もあります。すべての人のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて「おたがいさま」の風土づくりを意識してみませんか。